

LGBTへの理解深める

豊明市が幹部職員向け研修

豊明市は十四日、性的少数者（LGBT）について学ぶ研修会を市役所で開いた。市の課長級以上の幹部三十二人が参加し、LGBTの当事者らの話に耳を傾けながら理解を深めた。
（森若奈）



LGBTに関する説明に耳を傾ける市幹部ら＝豊明市役所で

市は八月、県内の市町（アスタ）の共同代表村で初めてとなるLGBT理事久保勝さん（三）愛Tに関する宣言「LGBT知教育大四年」が講師を務めた。Tともに生きる宣言」を務めた。

出した。今回の研修はLGBT支援を進めるための取り組みで、今後、一般職員向けの研修も開く。久保さんは十三人に一人が当事者という調査を示しつつ「LGBTの存在は『いない』のではなく『見えない』だけ。性別はグラデーションで、男女の二元論ではない」と説明。また、職場など

研修の前半では、LGBTを支援する名古屋市のNPO法人「ASTA」と説明。また、職場など

で「自分はLGBTだ」と告白された時は共感を示すこと、「アウティング」と呼ばれる本人の許可なく秘密を暴露する行為をしないことなどを訴えた。

その後、参加者は少人数のグループに分かれ、当事者やその親から、これまでで人生で困ったことや子どもからの告白を受けて戸感った体験などを聞いた。

研修を終えた企画政策課の小串真美課長は「子どもの告白を十年間受け入れられなかったが、それを乗り越えたという保護者の話が心に残った。話を聞いたことで、LGBTについて表層的ではない理解ができた」と振り返った。

久保さんは「偏見の解消には、LGBTの人が身近な存在と知ることが第一になる。こうした取り組みが、豊明市から他の自治体にも広がってほしい」と力を込めた。